

## 総 評

審査委員長 大坪 明

今回のあすなる夢建築は、昨年より応募が少なかったのが残念だが、それでも180点近い応募があり、本コンクールが建築を目指す高校生や専門学校生の皆さんの間に浸透してきていることは事実である。

今回も応募要領では、維持管理の容易さや使い勝手の良さを大きな評価ポイントとすることが明確に提示された。デザインには、今まで無かった新しい形態や、新しい使い勝手等も含めて新たな価値観を提示する役割も持つことは確かである。しかし、「公園の中の便所」という一般大衆が使う施設の実現を前提とした設計コンクールであり、アイデアだけを問うものではない。その上、実現されたものが利用する人を満足させ、維持管理をするのに特段の労力や費用を要さないと言う条件なのである。つまりは、アイデアあふれるデザインとともに利用勝手と維持管理のことを十分に読み込んだ、「練れた」設計が求められている。

この様なことをしっかり踏まえた上で建築形態にまとめ、しかも当該建築単体の内部の使い勝手だけではなく、周囲とどのように呼応するかということも併せて考えられている必要がある。今回は、公園の中と言う立地であり、しかも駐車場と公園を繋ぐ位置に建つので、この、周辺といかにか呼応するかということについて多くの応募者が腐心してくれた。しかし、一部にはそれが抜け落ちて、単体の形態とプランを作り上げることに集中しているような案も見受けられたのは残念であった。建築は、そこに置かれることによって「場」をつくるのだということを理解して欲しい。

今回応募された作品を見ると、面積要件の捉え方にばらつきがあった。応募要領上での定義が不明確で、応募された皆さんにご迷惑をおかけした点に関しては、お詫びをすると共に反省点として今後はこの様なことが無い様に注意をしたい。

### 田中一宣作品（最優秀作品賞）

単なるトイレの機能だけでなく、周囲の庇がつくる中間領域により、雨宿りや休憩のための機能を持たせ、それをデザインの要素にしたことに多くの評価が寄せられた。しかし、便房前の屋内植栽の維持困難性、敷地のレベル差との整合性、トップライトからの熱取得の防御、通風による臭気の除去、外壁際での庇雨水の落下等の細部に関し、実施に向けた改善が求められる。

### 村田豊隆作品（優秀作品賞）

各棟の機能に応じてボリュームを変化させ、北東から南西に至る動線に素直に順応した分棟配置は明快で、軽やかさとリズムカルな印象を与えてくれる提案である。多面体の屋根形状は、周りの緑の風景の中に溶け込みながらもランドマークとしての機能を発揮している。しかし、コストと耐久性の面での課題も見受けられる。

### 徳原俊樹作品（優秀作品賞）

敷地の特性を読み込んだシンプルな円弧を描く全体ボリュームのファサードガラスとサッシュのデザインが、トンボの羽根の文様を想起させるもので、その明晰なアイデアが、蜻蛉池という今回の計画敷地に適応するものとなっている。さらにコンパクトなプランを提案し、背面や側面の壁のデザインに更なる配慮があればより説得力ある提案となったであろう。

### 山田善紀作品（優秀作品賞）

コートハウスの壁で囲まれたスペースに、中庭～トイレ～中庭～トイレ～中庭と連続した構成は新しいトイレとして評価できる。しかし、壁と屋根の隙間から雨が吹き込み、通路やトイレブースが雨水で汚れることが懸念される。この案は雨の問題をクリアにし、緑との融合を実現できればよい案になるだろう。

### 神山貴成作品（佳作）

敷地形状に合わせて建物を配置し、ステップの向きで蜻蛉池への視線を誘導するなど平面計画は高く評価でき、また施工や維持管理のしやすさについても充分評価できる。ただ、多目的ブース利用者が大きく建物を迂回しなければならないことや女子便所入口の目隠し位置、屋根勾配等に課題がある。

### 西岡広登作品（佳作）

陸屋根に軽快さを加味した開放感のあるシンプルで落ち着いたデザインである。平面プランでは、ブースや手洗いを集約して利用動線に無理がなく、清掃や修繕など維持管理が容易である。植栽や花壇、ベンチの配置、駐車場から大芝生広場への軸線を意識した建物配置やアプローチ等は再考が望まれる。

### 伊地知真人作品（佳作）

敷地のレベル差を把握し、公園を訪れる者をやさしく包み込む印象に残るデザインで、使いやすい平面プランである。一方、柔らかな曲線を描く白い屋根をコルゲート鋼板としているが、材料の選択は妥当か。風雨への対応等、課題も見受けられる。

### 佐藤雄亮・石井晶作品（奨励賞）

トイレブースや手洗等の機能を分散させた今までに無い案である。しかし、利用者がトイレを使用する際に混乱が生じられると思われるため、色やサイン等でのルールをつくる必要がある。また、屋根が重なり合い、断面のように光が入らず暗くならないか懸念される。

### 岡崎哲也作品（奨励賞）

敷地全体を覆うC型の形態の屈折する3点にトイレが配された—先鋭的なデザインである。C型の空間とその外部空間がランドスケープデザインとして成功しているが、コストやメンテナンス等の課題も同時に指摘された。